

案件概要書

2017 年 4 月 25 日

1. 基本情報

- (1) 国名：ナイジェリア連邦共和国
- (2) プロジェクトサイト／対象地域名：連邦首都区（アブジャ）（人口：約 240 万人）
- (3) 案件名：ナイジェリア疾病予防センター検査機能強化計画（The Project for Strengthening the Diagnostic Capacity of Nigeria Center for Disease Control）
- (4) 事業の要約：本計画は、ナイジェリア首都区に位置する「ナイジェリア疾病予防センター」（Nigeria Center for Disease Control。以下、「NCDC」という。）国家標準検査室敷地内にバイオセーフティ・レベル 3（以下、「BSL3」という。）の封じ込め検査室を設置することにより、感染症対応及びサーベイランス機能体制の強化を図り、もって同国における感染症の予防と拡大防止を通じた社会開発の推進に寄与するもの。

2. 事業の背景と必要性

- (1) 本計画を実施する外交的意義

2016 年 8 月の TICAD VI の機会に行われた安倍総理とブハリ大統領との首脳会談では、両国の経済関係促進、安保理改革など国際場裡での協力関係強化を確認した。我が国は、G7 伊勢志摩サミットにおける成果のひとつである「国際保健のための G7 伊勢志摩ビジョン」をアフリカにおいても着実に実践することを宣言し、第 6 回アフリカ開発会議（TICAD VI）においても「強靱な保健システムの促進」のための取組を表明しており、本計画への支援は、同コミットメントの達成にも貢献するものである。

ナイジェリア連邦共和国（以下、「ナイジェリア」という。）はアフリカ最大の産油国（OPEC 第 7 位）であり、日産約 231 万バレル（2015 年）の産油量を誇るとともに、アフリカ最大の天然ガス埋蔵量（世界第 9 位）を誇っている。原油及び液化天然ガスはナイジェリアの対日輸出の主要品目となっており、同国との安定的な関係の維持は、エネルギー資源の輸入元の多様化を通じた資源確保の安定化の観点からも重要である。

NCDC は同国における感染症サーベイランス、予防、緊急対応のための検査室ネットワークの中心であると共に、西アフリカ諸国経済共同体（ECOWAS）の感染症対策拠点にも指定されており、国内のみならず西アフリカ地域全体の感染症対策強化に資する施設である。

- (2) 当該国における保健セクターの開発の現状・課題及び本計画の位置付け

ナイジェリアはポリオの常在 3 カ国の一つであり、同国起源のラッサ熱が毎年流行し 149 人（2015 年 8 月～2016 年 5 月）の死者を出す等、感染症リスクが高い。2010 年に感染症のサーベイランス、予防、緊急対応及び調査能力の向上等を目的

として NCDC が設立され、同国における検査室ネットワークの中心的な役割を果たしている。しかし、高病原性病原体の詳細な検査を行う封じ込め検査室がないこと等が、迅速且つ確実な感染症の検知の阻害要因となっている。実際に 2014 年に同国でエボラ出血熱が流行した際には、検査室ネットワークが十分に整備されていないため迅速な検知が行えなかった。

こうした背景のもと、同国政府は国家開発計画「Nigeria Vision 20: 2020」において、保健分野を重点セクターの一つとして掲げ、国家保健政策（National Health Policy 2016）において感染症対策を重要課題の一つと位置付け、医療検査サービス政策（Nigeria Medical Laboratory Services Policy）及び医療検査戦略計画（Nigeria Medical Laboratory Strategic Plan 2015-2019）に基づき、検査室機能強化に取り組んでいる。本計画は、同国の検査室ネットワークのトップに位置する NCDC 内に、BSL3 の封じ込め検査室及びその前段階の検査・処理等を行い、スムーズに検体等を移動するため隣接する形で BSL2 基本検査室を設置することで、公衆衛生危機への対応能力強化を図るものであり、上記戦略計画で優先度の高い事業と位置付けられている。

また、NCDC は西アフリカ諸国経済共同体（ECOWAS）の感染症対策拠点となることが ECOWAS により 2015 年に決定しており、本計画は西アフリカ地域の感染症対策能力強化にも寄与するものである。

（３）保健セクターに対する我が国の協力方針等と本計画の位置付け

我が国は対ナイジェリア連邦共和国国別援助方針（2012 年 12 月）において、「都市部を中心とした社会開発の推進」を重点分野と定めており、本計画は我が国の協力方針に合致する。また、我が国は、「国際保健外交戦略」、「国際的に脅威となる感染症対策の強化に関する基本方針・基本計画」や「G7 伊勢志摩首脳宣言」等において公衆衛生危機への対応に取り組むことを表明している。TICAD VI のナイロビ宣言では、強靱な保健システム促進を掲げ、アフリカ大陸の感染症対応能力向上を目指すとしており、本計画はこれらの方針にも合致する。

（４）他の援助機関の対応

保健分野全般では、米国国際開発庁、英国国際開発省、欧州連合、世界銀行等が主要ドナーである。感染症対応では、WHO が技術的観点からの支援を、米国疾病予防管理センター（U.S. Center for Disease Control and Prevention。以下、「USCDC」という。）がサーベイランス体制、機材整備、緊急対応及び人材育成に支援を行っている。また、世界銀行はナイジェリアを含む 4 カ国を対象に西アフリカ地域ネットワーク強化支援を行う予定。

（５）本計画を実施する開発政策上の意義

ナイジェリアの所得水準は相対的に高いことから、「所得水準が相対的に高い国に対する無償資金協力の効果的な活用について」に基づき、無償資金協力の供与の適否について精査が必要である。

ナイジェリアでは、2014 年にエボラ出血熱が流行したことや、同国では毎年ラッサ熱が流行して死者を出すなど、高病原性病原体による感染症リスクが高い状況にあるが、バイオセーフティ・レベルを満たす封じ込め検査室を兼ね備えた検査機関

を有さず、迅速かつ確実な感染症の検知ができていない。高病原性の感染症は個人の生命の危機のみならず、社会・経済に対しても大きな影響を及ぼし、国際的な脅威となり得ることから、人間の安全保障の観点から、個人の尊厳、生命、生活に対する脅威への対応が必要である（人道上のニーズ）。

本事業は、上記の観点を満たすものであり、無償資金協力の供与が適当と判断できる。

3. 事業概要

(1) 事業概要

① 事業の目的

本計画は、連邦首都区に位置する NCDC 国家標準検査室敷地内に BSL3 の封じ込め検査室を設置することにより、感染症対応及びサーベイランス機能体制の強化を図り、もって同国における感染症の予防と拡大防止を通じた社会開発の推進に寄与するもの。

② 事業内容

ア) 施設、機材等の内容（協力準備調査にて詳細確認する。）

【施設】BSL3 検査施設（BSL3 検査室 3 室及び BSL2 基本検査室 3 室）

【機材】BSL3 及び BSL2 検査室で使用する検査機器（安全キャビネット、乾熱滅菌器、CO₂ インキュベーター、超低温冷凍庫、遠心機、自動核酸抽出装置等）

イ) コンサルティング・サービス/ソフトコンポーネントの内容

詳細設計、入札補助、施工・調達監理、NCDC 職員に対する検査施設の運営・維持管理研修等（協力準備調査にて詳細確認する。）

ウ) 調達・施工方法

協力準備調査にて詳細確認する。

③ 他の JICA 事業との関係

NCDC を対象とした技術協力「公衆衛生上の脅威の検出及び対応強化プロジェクト」（2017 年度開始予定）にて、NCDC 職員の検査・診断能力及び研究能力向上を支援する予定。

(2) 事業実施体制

① 事業実施機関／実施体制

ナイジェリア疾病予防センター（Nigeria Center for Disease Control）

② 他機関との連携・役割分担

USCDC が、BSL2 以下の一般的な感染症に関する検査を行うための機材を国家標準検査室に供与した。また、WHO や世界銀行が NCDC の感染症サーベイランス能力強化支援を実施しており、これらを通じて強化された能力を活かし、本計画で設置する検査室を有効に活用する等の連携が期待される。

③ 運営／維持管理体制

本計画で建設する施設及び整備機材の運営・維持管理は NCDC が行うが、検査施設の運営・維持管理能力の強化が必要であるため、ソフトコンポーネント

に加え、技術協力プロジェクトを実施予定。なお、維持管理費用は、NCDC の 2020 年度以降の予算で確保予定。

(3) 環境社会配慮

① カテゴリー分類 ☐A ☐B ☒C ☐FI

② カテゴリー分類の根拠

本計画は、「国際協力機構環境社会配慮ガイドライン」(2010 年 4 月公布) 上、環境への望ましくない影響は最小限であると判断されるため。

(4) 横断的事項

特になし。

(5) ジェンダー分類

ジェンダー主流化ニーズ調査・分析案件

(6) その他特記事項

特になし。

4. 過去の類似案件の教訓と本計画への適用

BSL3 検査室が導入されたザンビア共和国での地球規模課題対応国際科学技術協力「結核及びトリパノソーマ症の診断法と治療薬開発プロジェクト」の終了時評価等では、スタッフへの安全キャビネット保守管理に関する研修や、検査施設利用者に対するバイオセーフティ研修が、同施設の適切な維持管理や安全な運用に寄与したと指摘されている。

本計画でも、ソフトコンポーネントや技術協力を通じ、BSL3 検査室の日常運用や、先端的研究実施等の国家標準検査室としての高度な運用に係る NCDC 職員の能力強化を図り、事業効果が最大限かつ持続的に発現するように取り組む。

以 上

[別添資料] 地図

地図

アブジャ連邦首都区（NCDC 本部及び国家標準検査室所在地）

